

## 平成30年度 第3回 大阪府立柏原東高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 : 平成31年2月4日(月) 14:30~16:00

場所 : 柏原東高等学校

出席者 : 【委員】

福永 光伸 (大阪教育大学教職員研究センター 教授)

岡 加寿美(PTA 会長)

俵石 志津子(元 PTA 副会長)

中川 円香) 同窓会副会長)

### 【事務局】

水元 誠致 (校長)

吉岡 俊治 (教頭)

竹内 彰 (教頭)

吉野 達也 (首席、運営委員・3学年主任)

大西 利也 (運営委員・2学年主任)

### 1. 校長挨拶

### 2. 会長挨拶

### 3. 報告

(1) 平成30年度学校教育自己診断結果について (竹内教頭)

- ・学校教育自己診断結果について、学校への満足度は例年と変わらず、生徒回答60%、保護者回答では80%以上の肯定的結果が出た。
- ・授業の充実度に関しては、肯定的回答が50%に満たないが、昨年と比較すると微増している。
- ・課外活動、学校生活の充実度に関しては、学校生活の充実度を肯定的にとらえる生徒は例年並みで高い水準である。
- ・子供が柏原東で頑張っているという保護者の肯定的回答は90%で、例年通り高い。ルール、マナーに厳しいけれども、その中でしっかりがんばっていると大半の保護者が感じている。
- ・きめ細かい生徒指導に納得している生徒の割合は低いが、保護者には肯定的な割合が多い。ていねいな家庭連絡などにより、信頼できる先生が多いという項目の、保護者の回答が高めになっている。
- ・いじめに対する対応は肯定的な割合が若干減少している。来年度注意していきたい。

(2) 平成30年度授業アンケートについて (竹内教頭)

- ・座学と実技の比較では、実技の方が肯定的評価が高くなる傾向がある。そのなかで、地歴公民と体育、保健が教科・科目としては70点台の高評価となっている。特に体育の評価はよく、生徒は、厳しい授業ではあるが、ルールにのっとった楽しい授業であると受け止めている。
- ・各学年の経年変化では、学年が上がると評価も上がるという傾向が見られる。
- ・1回目と2回目の比較では、2回目のほうが肯定的評価が下がる傾向がある。1回目時は、まだ1学期成績が出ておらず純粋にプレッシャーなく回答しているが、2回目は、内容も難しくなり、進級に関するプレッシャーを感じた上で回答するので、低くなるのではないかと分析している。

(3) 大阪教育大学との連携事業について (吉岡教頭)

- ・教育協働学科学生7名のフィールドワークを受け入れ、登校指導、授業見学等を行った。来年度は、八尾翠翔高校で実施予定。
- ・教育実習生の受け入れについて、来年度は書道で実施予定。また卒業生を保健体育科で1名受け入れ予定。
- ・大阪教育大学連合教職大学院の教育実践力開発コース学校実習を昨年度からの引き続きで、2年生1名を受け入れ。来年度は、八尾翠翔高校で受け入れ予定。
- ・府立学校の教職コンソーシアムの教師の学び舎に、初任教員が第8クールで2名、第9クールで3名参加。生徒向けのキャンパスガイドでは2年生1名、1年生2名の合計3名が参加。
- ・大阪教育大学グローバルセンターの留学生を招いて、国際交流事業を実施。八尾翠翔高校の生徒も参加した。来年度は八尾翠翔高校で実施し、本校からも参加の予定。

(4) 柏原市立中学校との連携事業について (吉岡教頭)

- ・中高連携書写授業を今年度も実施した。内容は、1学期楷書、2学期行書、3学期4文字作品の作製である。1クラスあたり、1学期2回、2学期2回、3学期1回で計5回を、7中学、全17クラス475人を対象に実施。第10回中高連携書写・書道展も1月19～21日までの3日間リビエールホール玄関展示スペースで実施した。優秀作品については、巡回展として各中学校を回って展示していく。
- ・合同部活動についてバドミントン部、男子バスケットボール部、サッカー部で実施しました。3月には、バドミントンかしとん杯も実施予定。
- ・教員交流については9月に進路指導担当者会議を実施し、本校へ入学してきた生徒の情報交換などを行った。

#### 4. 平成30年度学校評価（案）について（校長）

- ・ 中期的目標として確かな学力、中退不登校の防止、開かれた学校、教職員の資質向上の4つを掲げている。各項目とも、おおよそ達成できていると評価している。
- ・ 学校教育自己診断の保護者の回収率が97パーセントで大変高い回収率になっている。日頃から本校では保護者との学校との密な連絡のなかで、提出物については必ず出すという徹底した指導の成果が表れている。
- ・ 教職員の学校教育自己診断の結果では、19項目中17項目の数値がアップしている。学校が前進し、取り組みが良くなっていっているという表れであると評価している。
- ・ 生徒の進路実現について、就職決定率7年連続100パーセントを達成した。
- ・ 特に働き方改革で、先生方の在校時間に関してかなり改善された。

##### 【岡委員】

- ・ 働き方改革で労働時間が短くなっているが、成果はあるのか。

##### 【校長】

- ・ 一人当たりのひと月の平均時間外在校時間数は、2時間程度減っている。

##### 【俵石委員】

- ・ 一斉退庁日があるとそこに目いっぱい詰め込み、次の日に疲労が残ってしまうのではないかと。

##### 【校長】

- ・ 一斉退庁日により他の日に悪影響を及ぼしているとは感じていない。

##### 【中川委員】

- ・ アンケートの数字にがんじがらめになっていると思われる。あと2年の中でこの環境を生かした自然にあふれる柏原東の特色ある教育を行ってほしい。

#### 5. 平成31年度学校経営計画（案）について（校長）

- ・ めざす学校像及び中期的目標の各項目、文言についてはこれまでのものを引き継いでいる。今年度ベースに、今年度の自己診断や授業アンケートの数値などをもとに2年後の目標を記入した。また、裏面には来年度1年間の目標を記載している。1番2番のめざす学校像と中期的目標の承認をいただきたい。

→ 承認

#### 6. 平成30年度教育活動の取り組み報告

（吉野首席）

- ・ 11月に授業改善のための研修会を実施した。年齢層をわけ、学年の違う、また教科の異なる教員と意見交換する機会を作ることができた。残り2年間は、学年を超えてサポートし合える学校作り、教職員同士の関係性を育むことで授業のみならず、生徒たちに向き合えるのではないかと考える。そのためのサポートを行っていきたい。

- ・3年学年主任の立場として、進路実現に関して、就職は100%完了している。進学面では、1名摂南大学に合格したが、全体的には少し苦戦している状況である。

(大西2学年主任)

- ・2年生は、10月に修学旅行を実施した。大きなトラブルもなく順調に予定をこなした。生徒・教員が個々の役割の認識をし、成長していったおかげだと感じている。

## 7. 各委員からの意見・質問

### 【中川委員】

- ・あと2年間柏原東高校というものを守っていただき、全員が卒業するころには、生徒の学校教育自己診断の結果が、保護者と同じ数字になることを目標にみんなが自然に「最高やった」といえるような学校作りをしてもらいたい。

### 【俵石委員】

- ・先生方が、残り2年間で学校をどういう風にしていこうかという流れも見えた。心に残るような卒業式をしてもらいたい。

### 【岡委員】

- ・PTAでは、次期会長候補が決まった。皆さんやる気まんまんで、盛り上げるんだという強い意志が見られる。先生方と一緒にがんばっていきますので、これからもよろしく願いいたします。

### 【福永委員】

- ・いずれの先生も生徒の方を向いて、生徒の話を親身に聞いていると感じた。その中から見えてくる生徒の感情のコントロールや、集団作りのことなどを細やかに心に留めていると感じた。働き方改革で大切なことは、生徒たちと向き合う時間を増やしていくことだと思うので、その点はこれからも大事にしていきたい。

## 8. その他

- ・次年度の第1回は、6月後半予定